

舞台演出、ビジュアルデザイン、ARの協働が、舞台芸術のイノベーションに挑む。
現代芸能『獅子と仁人』、オンデマンド配信を開始



獅子の舞とダンス、声とピアノの生演奏、そしてAR（拡張現実）が融合した現代芸能。コロナ禍により芸術文化の発表・鑑賞体験が制限される現在に、次世代のアーティストが立ち向かう。配信環境ならではの舞台芸術表現・鑑賞体験を追求した、デジタル時代の芸能が誕生。

現代芸能『獅子と仁人』は、世界に広く伝わる「獅子舞」を題材に、インターネットにおける、舞台芸術の新たな表現と鑑賞体験に挑む作品です。2020年11月に3日間にわたりストリーミング配信で発表した同タイトルを、今回は新たにオンデマンド配信版として映像化し、動画サイト Vimeo On Demandにて販売します。

3Dプリンティングによって刷新された獅子、ダンス、生演奏、リアルタイム合成によるAR（拡張現実）が融合した表現に、観客は舞台上にいるかのような臨場感と圧倒的な作品世界を体験します。沖縄を拠点に活動する創作エイサーLUCKと龍神伝説、東京のアートグループGRINDER-MAN、ビジュアルデザインスタジオWOWをはじめ多彩なアーティストのコラボレーションによって実現した本作は、テクノロジーと実験性を積極的に取り入れたデジタル時代の芸能のあり方を提示します。

配信/作品情報

現代芸能『獅子と仁人』
The Ancient Lion and Modern Man
オンデマンド配信版

35分/日本 制作・販売元：株式会社イッカク

配信サイト：Vimeo On Demand

※プロモーション映像（1分）

<https://vimeo.com/ondemand/ancientlionandmodernman>



価格：

購入=12.00 USドル

レンタル（72時間）=5.00 USドル

公式サイト：

<https://shishi.grinder-man.com/>

最新情報 Facebook：

<https://www.facebook.com/shishitohito/>

※報道関係の皆様を対象に、無料で本編を視聴できるプロモーションコードを発行いたします。

広報・取材に関するお問合せ： 株式会社イッカク（担当：仲之條紗織）saori.nakanojo@1kc.jp

現代芸能『獅子と仁人』 オンデマンド配信版

獅子との出会いによる、ひとの覚醒のものがたり。インターネット上の新たな「現代芸能」が生まれる。

本作『獅子と仁人』は、アジアに広く存在する伝統芸能「獅子舞」を題材に、デジタルテクノロジーを積極的に取り入れた舞台／映像作品です。本作の第1弾は、2020年11月に沖縄の宜野座村文化センター「がらまんホール」からストリーミング配信で発表され、3日間にわたる全3公演には、世界各国から計一万人を超えるアクセスがありました。本作オンデマンド配信版は、文化庁芸術文化収益強化事業に採択され、2021年2月に全編にAR（拡張現実）を取り入れた高解像度版として制作されたものです。コロナ禍において舞台芸術の創作・発表・鑑賞機会が制限されるなか、ダンス、音楽、映像、造形デザインなど幅広い領域で活躍するクリエイターがコラボレーションし、オンデマンド配信に特化した舞台芸術表現が生まれました。



本作の見どころ

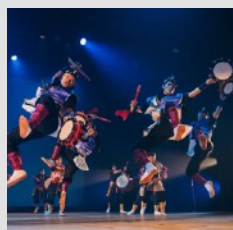
3Dプリントによる獅子舞の造形に、沖縄の舞手たちが躍動感をもたらす

本作には、3Dプリントによる頭部を纏った金と銀の美しい二頭の獅子が登場します。緻密な獅子のデザインに、生命力を吹き込むのは、沖縄の舞手たち。デジタルファブリケーションと、伝統を新たに継承する若手の舞手たちとの協働、時代の異なる表現の共存により、新時代の獅子舞が誕生しています。



出演（銀獅子）

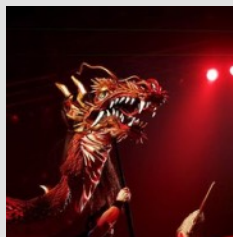
創作エイサー LUCK（エイサーグループ）



沖縄県北部の宜野座村を拠点に活動。2007年沖縄中央学園卒業後に旗揚げ。沖縄の地域芸能として親しまれてきたエイサーや獅子舞、沖縄の先人たちが築いた文化・琉球の心を大切に、新たなスタイルでの表現に取り組んでいる。これまでに国内のフェスティバル等のほか、中国、アメリカ、韓国、タイ、シンガポール、マレーシア等でも公演。
<https://sosaku-eisa-luck.wixsite.com/>

出演（金獅子）

龍神伝説（エイサーグループ）



沖縄県うるま市を拠点に活動。琉球古来の伝承をもとにした勇壮な龍神の舞を現代に呼び起こし、新しい琉球芸能として、獅子や太鼓、旗の舞、花鼓（女性太鼓）など多様な演舞を展開する。国内のイベント出演や、PVやCM出演、中国、アメリカ、台湾、イタリアでの公演や現地エイサー指導など多数。

鑑賞体験を追求した一人称カメラワークと、音楽とダンスに呼応するAR（拡張現実）

本作は、全編にAR（拡張現実）を取り入れた演出と、ワンカメラによる一人称視点での映像を特徴としています。獅子の舞とダンス、唄とピアノの演奏に呼応するARは、作品の圧倒的な世界観を生み出します。さらに、各シーンは1台のカメラだけで撮影されており、鑑賞者にあたかも舞台の上にいるような臨場感あふれる鑑賞体験をあたえます。



古きと新しきが挑む、舞台芸術のイノベーション。

デジタルクリエイティブを牽引するチームが協働し、デジタル時代の芸能「現代芸能」を創造するプロジェクト

現代芸能『獅子と仁人』は、インターネットにおける、舞台芸術のあらたな表現と鑑賞体験の創造に挑むプロジェクトです。

本プロジェクトは、1990年代よりテクノロジーによる舞台芸術表現を追求してきたGRINDER-MANとデザインスタジオWOW、ゲーム開発スタジオのライノスタジオにより、2020年に始動しました。

NFT付与によるクリプトアートや、ファッション、ポップカルチャーに至る様々なコンテンツが、デジタル資産としての価値創造を試行するなか、本プロジェクトもまたインターネット上の新しい価値を探究しています。同時に、コロナ禍における活動自粛に伴い、作品の配信・視聴が余儀なくされる状況において、本プロジェクトでは記録映像の配信ではない、ストリーミング配信やオンデマンド配信に特化した舞台芸術表現に挑戦しています。

本プロジェクトでは、新たなデジタルカルチャーとして舞台芸術を創生することを目指し、身体表現にあるリアリティと映像ならではのVFX（視覚表現）を追求し、リアルとバーチャルが交錯する一歩先の鑑賞体験へと挑み続けます。

プロジェクトの変遷

2020年11月：

現代芸能『獅子と仁人』

ストリーミング配信版を発表

会場：宜野座村文化センターがらまんホール

主催：株式会社イッカク

共催：宜野座村文化のまちづくり事業実行委員会
(がらまんホール)

助成：芸術文化振興基金

2021年4月：

現代芸能『獅子と仁人』

オンデマンド配信版を発表

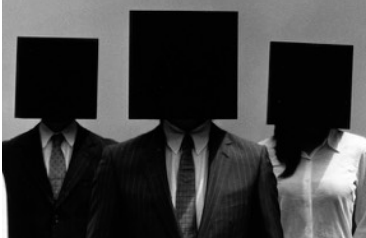
主催：文化庁、株式会社イッカク

文化庁委託事業「文化芸術収益力強化事業」

2021年夏：

劇場とオンライン配信のハイブリッド形式となる作品創作・発表を予定

演出・振付・企画制作



ビジュアルデザイン

WOW

CG



GRINDER-MAN (アートグループ)

<https://grinder-man.com/>

演出家のタグチヒトシと振付家の伊豆牧子をメンバーに、演出・振付を駆使して「いま・ここ」の身体表現を生みだす。国内外で舞台作品やメディアアート作品を発表するほか、ライブツアー演出やプロモーションのクリエイティブプランニング、映像の振付およびキャストイングまで幅広く活動。演出・振付・キャストイング等により、幅広いクライアントへの表現提供や受託業務も多数手掛けている。

WOW (ビジュアルデザインスタジオ)

<https://www.wOw.co.jp/>

東京、仙台、ロンドン、サンフランシスコを拠点に、広告における多様な映像表現から、様々な空間でのインスタレーション映像演出、メーカーと共同で開発するユーザーインターフェイスデザインまで、幅広いデザインワークをおこなう。さらに、オリジナルのアート作品やプロダクトを国内外で多数発表。作り手個人の感性を最大限に引き出しながら、ビジュアルデザインの社会的機能を果たすべく、映像の新しい可能性を追求し続けている。

ライノスタジオ (CGスタジオ)

<https://www.rhino-studios.com/>

リアルタイム・コンピュータ・グラフィックスを専門とする制作スタジオ。ゲーム制作を専門とするメンバーが集まり、2005年に設立。あらゆる想像や情報をリアルタイムでインタラクティブなコンテンツとして具現化することに日々力を尽くしている。制作に携わった作品に、VR演劇作品・小泉明郎「縛られたプロメテウス」(2019)、バーチャルライブ「初音ミク「GALAXY LIVE 2020」(2020)、空間移動型VR「VR ABAL: DINOSAUR」(2017)、PS4専用ゲーム「Bloodborne」(2015)、PS3専用ゲーム「AFRICA」(2008)など。

現代芸能『獅子と仁人』オンデマンド配信版 出演者・スタッフ プロフィール

出演（ダンス）

杉本音音（振付家、ダンサー、パフォーマー）



1996年生まれ、立教大学現代心理学部映像身体学科卒業。4歳から新体操とクラシックバレエを始め、15歳でコンテンポラリーダンスに出会う。2019年より「関かおり PUNCTUMUN」に在籍。写真やテキスト、ヘアメイクや映像とコンテンポラリーダンスとの協働企画や、演劇作品への参加、音楽家との共演など様々なジャンルとのコラボレーションし、振付や作品制作を行う。近年の出演作品に、STAR ISLAND「SINGAPORE COUNTDOWN EDITION」（2019）など。

<https://neensugimoto.jimdofree.com>

音楽・ピアノ

畑中正人（作曲家、サウンドデザイナー）



独学で作曲、ピアノ、音響学を学び、1995年より札幌市を拠点に活動。「娯楽や芸術としての音」、そして社会の中で本当に必要とされ機能する「音のデザイン」をテーマに、20年以上に渡り、様々な舞台、イベント、CMなどで作品を手がける。東京スカイツリー「天望回廊」のサウンドシステムの企画・構成、演出（2012）、第10回札幌国際短編映画祭のテーマ曲制作（2015）から、公共空間、電子機器の操作音などのサウンド、ワークショップやレクチャーの実施まで、その活動は多岐に渡る。

<http://www.hatanakamasato.net/>

唄

鎌野愛（作曲家、ヴォーカリスト）



東京都と八ヶ岳を拠点に、歌や声で出来る表現の可能性を追求し、本格クラシックからバンドまで幅広い分野で活動を行う。2016年2月まで「ハイスイノナサ」のボーカル、キーボードとして活躍。テレビアニメ「東京喰種トーキョーグール/A」の主題歌（楽曲：österreich）やEテレ特集「桜守の遺言」をはじめ、数多くのテレビ番組や企業イベント、広告等に歌声を提供。2019年2月には、作曲、作詞、歌唱、鍵盤の全てを手掛ける自身初のソロアルバム「muonk」をリリース。

<http://kamanoi.com/>

獅子造形

松岡象一郎（特殊メイク、特殊造形アーティスト）



光ファイバーやシリコンなどの最先端の素材を取り入れ、CM、映画、音楽、ファッション、ブランド広告などの様々なメディアにおいて、特殊メイクや衣装、造形物、ディスプレイ等の創作を手掛ける。京都の西陣織に編み込んだ光ファイバーを、シリコン造形物に使用する日本初の表現スタイルも確立。特殊メイクを軸に、造形やファッションなどの様々なジャンルを融合させた独自の世界観を有するアーティストとして、個展開催のほか、国内外の展覧会にも参加している。株式会社ジーエム代表。

<http://gm-atelier.com/>

現代芸能プロジェクト『獅子と仁人』オンデマンド配信版

演出・振付：GRINDER-MAN ビジュアルデザイン：WOW

銀獅子：島袋拓也（創作エイサーLUCK）、浦崎直史（創作エイサーLUCK）

金獅子：上江洲安秀（龍神伝説）、比嘉健斗（龍神伝説）

仁人：杉本音音

唄：鎌野愛

音楽：畑中正人

演出：タグチヒトシ（GRINDER-MAN）

振付：伊豆牧子（GRINDER-MAN）

ビジュアルデザイン：WOW

映像演出：谷口勝也

映像演出システム：高鳥光

獅子造形アーティスト：松岡象一郎

映像演出システム：高鳥光

獅子造形アシスタント：中村希世、百瀬仁郎、山本日和

獅子造形3Dデータ生成：株式会社TAPP

衣装デザイン：中村実樹

舞台監督：遠藤豊

照明：田代弘明

音響：小林高治

録音：福岡功訓

演出助手：三橋俊平

会場ディレクション：小越友也

撮影：松井涼、比嘉誠

撮影アシスタント：上原孝心

編集：小林文朋

記録映像ディレクション：田村孝史

記録映像撮影：大木大輔

記録写真：仲間勇太

制作：仲之條紗織

企画：株式会社イッカク

会場：宜野座村文化センター がらまんホール

協力：株式会社ジーエム、ライノスタジオ、株式会社Flysound、

LUFTZUG、株式会社DOTWORKS、有限会社ファイナリスト、

八ヶ岳スタジオ、P.I.C.S.、テレビマンユニオン

特別後援：宜野座村文化のまちづくり事業実行委員会（がらまんホール）

主催：文化庁、株式会社イッカク

